

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2012年6月16日）

— 学習支援活動・押し花教室・茶話会 —

6月16日朝7時15分、新たに始まった学習支援定期便が、弘前大学前を出発しました。天候は快晴。この日の参加者は市民8名、学生11名、教員1名の計20名でした。時間の経過とともに、被災地への関心が薄れ、参加者不足を心配しましたが、杞憂だったようです。大変ありがたいことです。

活動予定は10時からでしたが、バスが少し遅れそうだったので、公用車で参加していた李が、先に野田村に向かいました。10時に野田村に到着し、活動場所の元清野鍼灸院に向かうとすでに15名ほどの村民の皆さんが、チーム・オール弘前の到着を楽しみしていました。顔なじみの方が多く、「先生、待ってましたよ」と声をかけてくださいました。本当にありがたいことです。



道の駅おりつめでの集合写真



押し花教室の様子

今回からの定期便は、学習支援ボランティア別名「学ボラ」を軸にさまざまな活動を組み合わせていきたいと計画しました。学ボラの活動は野田村の総合センター二階で行っている児童クラブで活動することになりました。児童クラブの部屋には、チーム北リアスの現地事務員の塩田君が掲示してくれた案内板が貼ってありました。部屋には13名の子供たちと指導員の先生2名が弘前からのお兄さん・お姉さんたちを待っていました。

「お兄さんたち、まだ？」と元気な子供たちの声が嬉しかったです。10時半にバスは野田村役場前に到着。急いで、学ボラと茶話会・押し花教室に分かれて、それぞれの会場に向かいました。茶話会チームは、コーヒーやお菓子などを購入するために、おなじみの「まるきん大沢菓子店」に向かいました。現地で必要な消耗品を購入することでほんの少しですが、経済的な支援になればと思います。奥の作業場から心さんがいつもの笑顔で



津軽三味線サークル演奏会



学ボラの様子

迎えてくれました。

11 時頃には茶話会と押し花教室の準備が完了し、活動が始まりました。押し花教室を指導して下さるのは弘前で障害者施設などで広くご活躍していらっしゃる石田先生と先生のお母様でした。先生のご指導をいただきながら、オリジナルコースター作りやはがきサイズの飾り物作りに励んでいました。また、作業しながらの茶話会では、身の回りの話や不安な気持ち、災害の体験談など、さまざまな話して盛り上がっていました。

押し花教室が始まった頃に、本日の特別ゲスト、弘前大学津軽三味線サークルの二人が力強い三味線の演奏を聞かせてくれました。温かい和室でお茶をすすりながら、三味線の音色に目を閉じる。素晴らしいひとときでした。野田の皆さん、楽しんでくださいました。

学ボラでは、子供たちの宿題や勉強を手伝う予定でしたが、集まってきた子供たちは小学校低学年が多く、勉強よりお絵書きやロゴ作りに夢中でした。お兄さんたちも子供たちの甘い声に、つつい遊びに夢中になっていました。ま、いいか！宿題は帰ってからお家で必ずやってね。



絵本の読み聞かせ風景



津軽三味線の体験教室



泉沢仮設集会所での交流会の様子

12 時からは児童クラブの子供たちもお昼のために、一時休憩。ボランティアの皆さんは清野鍼灸院の和室でいつもの「かまどのつきやさん」のお弁当をいただきました。いつもご馳走様です。午後は、弘前の読み聞かせボランティアの皆さまの絵本の読み聞かせが行われました。お昼のために自宅に帰った子供たちが多く、少し人数が少なくなりましたが、絵本やエプロンシアターをみんなで楽しみました。読み聞かせグループの皆様、ありがとうございました。

午後二回目のお楽しみ会は、津軽三味線の体験教室。三味線サークルのお姉さんたちの力強いバチさばきに夢中になっていました。途中から「さんぼ」などの童謡が演奏されると皆で合唱、そして「まるまるもりもり」はみんなで踊りながら歌って、大盛り上がりでした。その後は、三味線の体験教室。皆夢中になって楽しんでいました。

15 時過ぎに活動は無事に終了しました。次にまた来るからねと次回を約束して、バスに乗り込みました。今日の 16 時 30 分から予定されていた泉沢仮設の交流会に参加する津軽三味線サークルの 2 名と学生事務局 2 名、教員 1 名を残しバスは出発しました。バスは、19 時頃に無事に弘前に到着したそうです。

残りの 5 名は 16 時過ぎに泉沢仮設集会所へ移動しました。集会所には京都大学の永田先生、八戸高専の河村先生、そして泉沢仮設の顔なじみの皆さまが集まっていました。交流会が始まってしばらくして、津軽三味線の演奏会が始まりました。力強い津軽じょんがら節の演奏の後、りんご節の演奏が始まると一緒に歌ったり、踊ったりと大変盛り上がりました。演奏が一段落すると、元気いっばいの 90 うん歳のさんちゃんの力強い民謡が仮設の集会所に響いていました。忘れられない一日になりました。感謝、感謝です。

李永俊